



川野新会長ごあいさつ

「知と遊びのプロバイダー」をめざして

経鷲会会長
川野 克美 (S33経)

経鷲会のみなさまには日々ご活躍のこととお慶び申し上げます。平素より当会の運営になにかとご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。伍堂前会長の後を引き継いで、これから会長の任を努めさせていただきますので、よろしくご協力をお願いいたします。

さて、経鷲会も設立してから11年目に入りました。この機会に、あらためて当会の輪郭をご紹介してみたいと存じます。

(1)当会は、各界で活躍している大勢のみなさまに「人的ネットワークづくり」の場を提供したいと願っています。インターネットの理論をマネして言えば「相互交流の価値は参加者数の二乗に比例して増える」のです。

若いOBのみなさん、経鷲会の輪の中で、もしかしたら転職の機会を探れるかもしれません。中堅からマネジメント階層のみなさん、たまには「ウチの会社」から外へでてみてください。第一線を退かれたOBの方々には余裕の時間をアルママーテルへの“出勤”に割いてみてください。

(2)当会の主な行事は①例年5月のオールソフィアンズ・デーに設ける「経鷲会サロン」と②同じく11月の「総会」と総会後の「講演会」です。③それに今年から始めた毎月第二水曜日の「月例サロン」(ソフィアンズクラブ)があります。④8月にはソフィア会と共催のゴルフ大会もあります。



(3)もう一つ、当会の会報誌「エコノミアン」を例年5月初旬と10月下旬に2回発行しています。行事のお知らせや活動報告等のほか、会員の投稿や消息なども掲載する予定です。とはいえ、一万円近いみなさんに郵送しているため、その費用が頭痛の種になっています。

以上、「あらまし」をご案内しましたが、当会の運営には二十数名の役員の献身的な努力もさることながら、みなさまの年二千円の会費が原動力となっています。みなさまの役に立つ経鷲会をさらに発展させ、慾を言えば欧米式の「知と遊びのクラブ」を目指したいものです。「会員交流のプロバイダー」にみなさまのご理解とご参画を切にお願い申し上げます。

伍堂前会長ごあいさつ

10年を振り返って

経鷲会名誉会長
伍堂 光雄 (S32経経)

昭和63年10月22日に約600名の経済学部卒業生が集まり、経済学部創立75周年記念行事が盛大に行われました。その席上で、中島さん(昭31年卒)、三好さん(昭36年卒)、大河原さん(昭42年卒)といった方々を中心として経済学部同窓会結成の呼びかけがあり、当日の出席者全員が発起人となり、有志による準備会が開設されました。そして平成1年11月4日、経済学部同窓会創立総会が開催され、正式に名称を「経鷲会」とする経済学部同窓会が発足。皆様の推挙により、私が会長をお引き受けし、昨年の11月まで務めさせていただきました。

この間、年々総会への出席者は減少傾向にありましたが、役員一同それを食い止めるべく、新企画の立案等で鋭意頑張りと、私は参画者が少なくとも毎年継続をモットーに努力して参りました。

数々の施策の中で特筆すべきものとしては、会員制の導入があります。また、多くのソフィアンにゲストスピーカーとして総会にお出でいただき、有益なお話をしていただいたこと、経済学部OBによる特別講義を行ったこと、経鷲会主催による年1回のオールソフィアンゴルフ大会を行ったこと(後にソフィア会主催へ)、OBと現役学生との交流会を春秋に



行ったことなどが思い出されます。

最後になりましたが、多くの同窓生に励まされ、何とか10年余過ごすことができましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。また、故内野経済学部長をはじめとする歴代の経済学部長の方々、経鷲会役員ならびに会員の皆様に対しても御礼申し上げますとともに、川野新会長を中心として、経鷲会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



川野新会長ごあいさつ

「知と遊びのプロバイダー」をめざして

経鷲会会長
川野 克美 (S33経)

経鷲会のみなさまには日々ご活躍のこととお慶び申し上げます。平素より当会の運営になにかとご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。伍堂前会長の後を引き継いで、これから会長の任を努めさせていただきますので、よろしくご協力をお願いいたします。

さて、経鷲会も設立してから11年目に入りました。この機会に、あらためて当会の輪郭をご紹介します。と存じます。

(1)当会は、各界で活躍している大勢のみなさまに「人的ネットワークづくり」の場を提供したいと願っています。インターネットの理論をマネして言えば「相互交流の価値は参加者数の二乗に比例して増える」のです。

若いOBのみなさん、経鷲会の輪の中で、もしかしたら転職の機会を探れるかもしれません。中堅からマネジメント階層のみなさん、たまには「ウチの会社」から外へでてみてください。第一線を退かれたOBの方々には余裕の時間をアルママーテルへの“出勤”に割いてみてください。

(2)当会の主な行事は①例年5月のオールソフィアンズ・デーに設ける「経鷲会サロン」と②同じく11月の「総会」と総会後の「講演会」です。③それに今年から始めた毎月第二水曜日の「月例サロン」(ソフィアンズクラブ)があります。④8月にはソフィア会と共催のゴルフ大会もあります。



(3)もう一つ、当会の会報誌「エコノミアン」を例年5月初旬と10月下旬に2回発行しています。行事のお知らせや活動報告等のほか、会員の投稿や消息なども掲載する予定です。とはいえ、一万円近いみなさんに郵送しているため、その費用が頭痛の種になっています。

以上、「あらまし」をご案内しましたが、当会の運営には二十数名の役員の献身的な努力もさることながら、みなさまの年二千円の会費が原動力となっています。みなさまの役に立つ経鷲会をさらに発展させ、慾を言えば欧米式の「知と遊びのクラブ」を目指したいものです。「会員交流のプロバイダー」にみなさまのご理解とご参画を切にお願い申し上げます。

伍堂前会長ごあいさつ

10年を振り返って

経鷲会名誉会長
伍堂 光雄 (S32経経)

昭和63年10月22日に約600名の経済学部卒業生が集まり、経済学部創立75周年記念行事が盛大に行われました。その席上で、中島さん(昭31年卒)、三好さん(昭36年卒)、大河原さん(昭42年卒)といった方々を中心として経済学部同窓会結成の呼びかけがあり、当日の出席者全員が発起人となり、有志による準備会が開設されました。そして平成1年11月4日、経済学部同窓会創立総会が開催され、正式に名称を「経鷲会」とする経済学部同窓会が発足。皆様の推挙により、私が会長をお引き受けし、昨年(平成11年)まで務めさせていただきました。

この間、年々総会への出席者は減少傾向にありましたが、役員一同それを食い止めるべく、新企画の立案等で鋭意頑張りと、私は参画者が少なくとも毎年継続をモットーに努力して参りました。

数々の施策の中で特筆すべきものとしては、会員制の導入があります。また、多くのソフィアンにゲストスピーカーとして総会にお出でいただき、有益なお話をしていただいたこと、経済学部OBによる特別講義を行ったこと、経鷲会主催による年1回のオールソフィアンゴルフ大会を行ったこと(後にソフィア会主催へ)、OBと現役学生との交流会を春秋に



行ったことなどが思い出されます。

最後になりましたが、多くの同窓生に励まされ、何とか10年余過ごすことができましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。また、故内野経済学部長をはじめとする歴代の経済学部長の方々、経鷲会役員ならびに会員の皆様に対しても御礼申し上げますとともに、川野新会長を中心として、経鷲会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



北から南から

「第二水曜日」気軽にソフィアズクラブを覗いてみよう

古屋 毅 (S32経商)

今年から経鷺会メンバーが第二水曜日18時から20時にソフィアズクラブに集おうということになったことは大変喜ばしいことです。実は、32年卒が第三火曜日に集まろうということで1年

余り続けましたが、単年度だけでは集まりも悪く、私独りという寂しいこともしばしばありましたが、今度は必ず誰かに会えるという期待がもてます。同窓生は勿論、先輩・後輩や現役の学生

と交流できる良いチャンスです。地方の方も、上京の折には是非顔を出して見てほしいと思います。

杜と水の都 盛岡から

樋口 憲雄 (S46経経)

経鷺会の皆様、四十六年経・経卒業の樋口憲雄です。

此の一月に転勤で来たばかりなのでほとんど町を知りません。そこで同僚から奨められている春の盛岡をご紹介しますと思います。

本州最大の面積を持つ岩手県。その県都盛岡市は南部藩二十万石の城下町で緑が多く、また市内で北上川に

粟石川、中津川が合流するまさに杜と水の都となっています。ここでは四月末の桜の季節、盛岡城跡・岩手公園の花崗岩の石垣と桜の花が緑多い園内にたいへん映えるそうです。郊外では小岩井農場を奨められています。

牧場への沿道は桜のトンネルになり牧場は白樺やポプラの新葉がともさわやかだそうです。このほかにも

温泉地も近郊にあり観光地のたくさんある町です。

氷点下の朝の続く長い冬が終わり、ようやく私も小岩井農場や渋民村の啄木記念館の見学をしようと計画しています。

皆様も北東北の旅は如何ですか。

留学
レポート

経済人としての活動の基盤になったコロンビア大学

浅川 哲郎 (S63経経)

昨年夏、6年間のアメリカでの生活に終止符を打ち、東京に戻って来た。向こうでの生活は、最初の2年はニューヨークにあるコロンビア大学のビジネススクールで経営学修士(MBA)を取るために勉強し、卒業後は4年間、アメリカの公認会計士として、Big 5と呼ばれる大手会計事務所で国際税務の経験を積んだ。また、最後の、2年間は、仕事をしながらニューヨーク大学ビジネススクールの上級プログラムで租税法を専攻し帰国直前の去年5月に卒業した。現在はBig 5の1つ、アーンスト アンド ヤングの東京事務所で日米間を中心とした租税計画の仕事をしている。

コロンビア大学はニューヨーク市のマンハッタン島にあり、過去に2人の大統領を輩出し、またアイゼンハワーが大統領就任の直前に総長を勤めていたというアイビーリーグの学校で、私が通ったビジネススクールも、世界一の投資家といわれるウォーレン・バフェットやクリントン政権の前首席補佐官であるアーンスキン・ボウルズなど

の有名人が出ている。日本人学生は1学年20人弱程度だけれども、上智大学卒業生でいうと東大、慶應に次いで早稲田とならぶ三番目の勢力だった。

学問の内容ですが、私は経営学科卒業で、上智ではどちらかと言うと組織論の授業が多かったような気がするが、ビジネススクールでは財務関係のクラスが圧倒的に多く、日本でも流行しているEVA(開発したスターンが教えていた。)や伝統的な手法を用いて企業価値を算定したり、デリバティブなどを用いた金融商品の開発のクラスに人気があった。もちろん組織論のクラスもあったが、組織そのものの議論というより常に組織の変化が経営の数値にどう影響を与えるかが議論の中心だったように思う。

また、コロンビアでの生活で特に印象に残ったのは、学校へのコミットメントを常に求めると言う点である。これは私立学校である以上当然のことだが、卒業生はしばしば学校を訪れ学生相手にスピーチをしていくし、教授も活躍しているOBと接し自分の研究に

役立てようとしているように思えた。現在、経鷺会では毎月第二水曜日にソフィア会館で簡単な懇親会を開いているが、こういう場が、OB、現役学生そして教授にとって有意義な場所になれば、と思っている。

私は、滞米中から40歳以下の経済人の社会活動集団である青年会議所(JC)に入り、ニューヨークではVice Presidentをやっていたが、こういう活動はコロンビアでの生活が無ければなかったように思う。JCについて紹介すると経鷺会関係では現在、衆議院議員をされている斉藤斗志二様がかつて日本JCの会頭をされ、また現在も各国JCの上位団体であるJC Internationalの副会頭として稲葉則光様が大活躍されている。上智大学時代は、基礎的な法律や経済の知識を涵養するのに役立ったが、ビジネススクールでの経験により専門分野をより深耕し、仕事や社会に対して積極的になれる態度が身についたように思う。



講議を終えて

高野 仁 (S38経経)

上智の学生に話をすることになった。学者でない身に期待されているのは、現実の社会の動きを具体的に伝えることだろう。外国人との付き合い方について話すのはどうか、新聞記事を取り上げるといい、などとアドバイスされた。講議は13回ある。話す内容は講議ごとに代えても、全講議を通じてひとつの筋を通したいと思った。筋とは共通点とも思想とも言い換えられる。そこで「ビジネスとは、利益を追求する闘争である」という思想を根底において、ハンザ同盟、通商都市堺、フランス人の粘り腰などを話し、OHPを映した。

例えば米欧バナナ戦争は、昨年米国の経済制裁決定に至るまで欧米間で長年に

わたり激しい駆け引きがあったが、この背景には大航海時代以来の植民地政策がもたらしたモノカルチャーの成立と米系多国籍企業の活動がある。歴史の上に現在を見ることにした。

就職活動が忙しい四年生が多数いるので、出欠は取らないことにした。出席者数は3、40人だった。驚くことがいくつもあったので以下に述べよう。最後に論文式試験をしたが、試験日に教室に入ったら、受講登録者の約9割の140人ほどが並んでいた。授業ごとに配ったプリントが計40枚近くになっていたのに、受講者のほとんどがプリントを持っていた(資料持ち込み可)。「東インド会社から長銀まで言及して、コーポレート・ガバナンス

のあり方について述べよ」などという手ごわいと思われた質問に対して、しっかり書いた答案が50枚ほどあった。これは日頃の出席者数より多い。いざとなればきちんとプリントを集め、それを読んで(講議にでなくても)理解する意欲と能力がある学生が多数いる。じつに素晴らしい答案が6、7枚あって嬉しくなった。「天下の秀才を集めて教育す。また愉しからずや」という古詩を実感した。答案の隅に「興味があって毎回出席した」「OHPにあった現地を自分で見たくなった」などの感想文が書かれているのを読んで、また嬉しくなった。

2000年度経鷲会役員が決定

名誉会長	伍堂 光雄 S32経経	松野 秀朗 S41経商	内藤久仁子 S57経経
会長	川野 克美 S33経経	秋葉 哲 S42経経	渡辺 公子 S57経経
副会長	本多 義人 S36経経	秋元 征紘 S43経経	事業企画副委員長 新貫 孝 S60経経
副会長	遠藤 千朗 S38経経	広報委員長 三木 真弘 S46経経	浅川 哲郎 S63経営
副会長	柳本信一郎 S38経商	広報副委員長 小國 敏雄 S53経経	斎藤 彰浩 S63経営
	倉橋 久輝 S34経経	総務委員長 八木 達郎 S49経営	藤野 美紀 H01経営
	堀井 侃 S36経経	総務副委員長 谷口 候人 S49経経	深川 敦子 H06経営
	印南 進 S37経経	服部 誠 S50経営	斎藤 真士 H08経営
	田島 勝彦 S37経経	会計委員長 西村 雅昭 S51経経	監事 大滝 史博 S38経経
	石川 冽 S39経経	事業企画委員長 上原 隆一 S51経営	監事 松本正一郎 S53経経
	池田 賢吾 S40経商	熊田 宗建 S52経営	
	松本 泰輔 S40経商	鈴木久美子 S55経営	



2000年ソフィアンズカップゴルフ大会のお知らせ

- 主 催：上智大学ソフィア会
 日 時：平成12年8月24日(木)
 競 技：18ホールズストロークプレー (ベリア方式)
 場 所：プレスカントリークラブ(群馬県安中市安中5853 TEL:027-382-5151)
 申 込：①参加費振込及び
 ②エントリーカードの提出をもって正式エントリーとしますので、下記手順に従ってお申し込み下さい。(受付は5月8日(月)より)
 ※上記2項目の確認が取れた方の内先着180名にてメ切り。
 ※最終メ切り日：6月23日(金)12時
 ※メ切り前でも定員に達し次第締め切りますのでお早めにお申し込み下さい。
- 参 加 費：18,000円 (グリーンフィ、キャディーフィー、昼食、ロッカーフィー、パーティー費、諸経費含む)
 問 合 先：上智大学ソフィア会事務局 担当：渡部、安藤
 TEL：03-3238-3041 FAX：03-3238-3028 E-メール：jimukyoku@sophiakai.gr.jp
 (ソフィア会事務局は8月5日から8月16日まで夏休みとなりますのでご注意ください。)



ダイヤの原石がたくさん転がっている経鷲会のイベント

上原 隆一 (S51経経)

経鷲会の多岐にわたるイベントは全て

1. 自己参加
2. 自己創造
3. 自己構築

をモットーとして毎年活発な活動を展開しています。気の置けない仲間達との語らいや、遊びの中から非常に大量の有益な情報が得られます。学校を卒業し、社会人として活躍している、己の仕事に関しては「確かにプロフェッショナルな」仲間達から得られる情報は、新鮮で、驚きと、自己啓発に繋がる貴重な宝物です。

こんな集まりに参加していないとすれば、

たいへん勿体無い話です。確かに仕事は忙しいです。学校も少し遠いかもしれませんが。でも集まっている仲間は、等しくビジネスの世界で忙しく活躍している連中ばかりです。そんな奴等が定例会や各種イベントに集まり、ワインを飲み、よもやまの話をしています。ワイワイ騒ぐときもありますが、大方静かに語り合っていることが多いようです。

最初は少し億劫かも知れませんが。人によっては気後れを感じるかも知れませんが。でも心配ご無用です。気楽な催しから、大きな規模の催しまで幾種も揃っている催しの中から自分の都合に合わせて参加できるもの

に気軽にお出で戴ければOKです。初めて参加した人でも上智を卒業したということが接点で、初対面のOBとも10年来の親友のように話に花が咲きます。

経鷲会が何らかの形で参加企画しているイベントの今年の簡単な予定を下記の通りお知らせします。詳細は機関誌「エコノミアン」などでご確認ください。経鷲会は、OBが自ら創り上げていく組織です。数多くのOBのご参加をボランティア精神に溢れた役員が心よりお待ち申し上げております。

記

1. クラブファースト・ソフィアの会	毎月1日(土・日・祝日に当たるときは翌日)	ソフィアンズクラブ
2. 経鷲会定例会	毎月第二水曜日	ソフィアンズクラブ
3. OB現役交流・就職説明会	毎年12月頃	
4. オール・ソフィアンズ・デイのワインコーナー	5月28日	
5. 産業論特別講座講師を囲む会	7月(産業論特講のあった場)	
6. ソフィアンズカップゴルフ大会	8月24日	
7. 経鷲会総会	11月	
8. 忘年会	12月	

その他「奥秩父三峰山ハイキング」「メルシャンワインの会」等いろいろ展開しています。

以上

今年の経鷲会コーナーは「カベルネを極める」

毎年ご好評を戴いているオールソフィアンの集い当日の経鷲会コーナーは、「伝言版」の設置や就職相談や実業界での体験を学生に伝える「現役学生との交流会」とともに本年もワインコーナーを設置します。昨年は「ワインとチーズの相性」と題してワインのセバージュ(品種)の違いなどを紹介しましたが、本年は一步進めて、世界中で成功を収めている代表的セバージュの「カベルネ・ソーヴィニオン」にスポットをあてて見たいと思います。楽しく語らいながら、旧友との懇親や新しい友人との出会いのお手伝いをさせて戴ければと思っています。たくさんの方のお越しをお待ち申し上げます。

1. 日時 5月28日(日)
11時～14時30分頃
2. 場所 体育館1階
3. 「カベルネを極める」解説 13時～14時
解説者はS51年卒 上原隆一
日本ソムリエ協会認定ワインアドバイザー

会費納入にご協力を!

郵便局にて下記の口座をお願い致します。

口座番号: 00150-8-537559

宛先: 上智大学経鷲会

